

開会の挨拶

札幌学院大学社会情報学部長 千葉 正喜

社会情報学部では毎年この時期に「社会と情報に関するシンポジウム」を開催しています。今回で15回になりますが、学部創立以来15年ということでもあります。本学部にとって今年は1つの契機になるかもしれない、そういう時期ではないかと思っています。こういう時期にこういうシンポジウムを持つことは、大変意義が深いものがあります。

社会情報という学部に対する社会的評価は、けっこう厳しいようではありますが、この学部も例外ではありません。けれども、私どもとしては、社会情報学部の存在意義を、社会的関係性において情報の意味や価値が理解できて、社会に的確な情報を発信できる知識と技術を身に付けることにあると再定義しています。そして、その具体的な内容として、情報デザインの分野があるのではないかと考えています。この社会における情報デザインということで『ユニバーサルな社会とデザイン』をテーマにして、このシンポジウムを開くことになりました。社会とデザインに関わる問題、特にコンピュータの社会的利用が中心になろうかと思われませんが、多面的にそれに関わる問題をとりあげて議論と討論をしていただければ、大変幸せではないかと思えます。

安村先生は長年プログラミング関係の研究をされ、また最近ではヒューマンインタフェースの研究を進められているとお伺いしています。山梨大学の三重野先生は社会福祉を生活



の質に資するという点から研究をされておられます。それから、法政大学の原田先生は人間中心設計、生活環境とデザインなどを科学哲学や認知心理学の立場から論じておられます。今日はこの三人の方々をお招きしています。

三人の先生方には、この北海道、札幌学院大学のシンポジウムにおいて頂き大変ありがとうございます。忙しいにもかかわらず、このシンポジウムに足を運んで参加して下さいました参加者の皆さんにも感謝申し上げます。この2日間、活発な議論が展開されて、シンポジウムが実り多い成果が得られるよう期待しております。